

講義名: 世界の市民-戦争と正義-日本を巡る国際法上の諸問題 <春> 曜日: 月4 担当教員名: 松村 昌廣	ナンバリングコード: WDCZ1000 曜日2:				
研究室: 聖アンデレ館10階1010号室 オフィスアワー: 事前アポで月～金(秋学期中)で双方の都合で日時は柔軟に行います	メールアドレス: masahiro@andrew.ac.jp				
授業形態					
『講義』					
講義・演習概要					
<p>世界市民になるには、世界情勢に対する深い理解とともに、道徳的な判断力も必要である。とりわけ、多大な人命が犠牲になり、甚大な物理的破壊をともなう戦争と正義の問題は重要である。実際、第二次世界大戦・大東亜戦争・太平洋戦争(立場により、呼称が異なる)の敗戦国であった日本はドイツやイタリアとともに「侵略国」と位置付けられ、国際的な非難にさらされてきた一方、そうした位置付けを巡って、わが国の国内外でも賛否が激しく議論されてきた。そこで、本講義では、こうした議論を行う際の「始まり」であり且つ往々にして「終わり」である国際法上確定した事実などを詳しく解説する。</p>					
学習(到達)目標					
<p>戦争は始まりから終わりまで国際法に従って行われます。そうしなければ、国際法に違反することとなり、国家やその軍隊、場合によっては、個人の政治指導者や軍人は責任を負わねばなりません。国際法上、戦争はいつ、どのように始まり、終わるのでしょうか。また、戦争中は何が許され、何が許されないのでしょうか。本講義では、日本のケースに焦点を絞って、こうした論点を具体的に考えていきます。学生諸君の中には高校の世界史や日本史の授業で近現代史に関する知識を十分身につけていない者も散見されますが、こうした学生は本講義をとることによって、基本的な知識を習得するきっかけとなるでしょう。また、本講義の内容を十分習得すれば、わが国の戦争と正義の問題に関する論争をより深く理解し、自分なりの意見を持つことが可能になるでしょう。</p>					
講義・演習計画					
【第1回】 正義と戦争 — 国際法の観点					
【第2回】 日米開戦					
【第3回】 原爆投下・空襲					
【第4回】 「無条件降伏」と占領(1)					
【第5回】 「無条件降伏」と占領(2)					
【第6回】 東京裁判					
【第7回】 サンフランシスコ講和条約					
【第8回】 台湾(1)					
【第9回】 台湾(2)					
【第10回】 千島列島・北方領土(1)					
【第11回】 千島列島・北方領土(2)					
【第12回】 南樺太(南サハリン)					
【第13回】 竹島					
【第14回】 尖閣列島					
【第15回】 まとめ					
成績評価の方法					
試験	100%	レポート		その他	
コメント	遠隔講義となった場合、M-PORTを介したレポート試験になります。完全論述・論文形式(3500字～4500字)ですので、この形式に慣れていない学生は要注意です。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・色摩力男『日本人はなぜ終戦の日付をまちがえたのか』黙出版、2000年。 ・芹田健太郎『日本の領土』中公文庫、2010年。 ・各自必ず、インターネットから関連の条約等をダウンロードして、ファイルの形で自分の「条約集」を作ってください。 					
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)					
講義の進度に合わせて、参考文献に挙げた書籍を読んでください。					
その他備考(担当教員用)					
キーワード					
備考(管理者用)					
(旧:世界市民-戦争と正義-日本を巡る国際法上の諸問題)02～19生読替					